

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
E-mail:shimpoh-c@uccj.org
発行人 竹前昇
編集主筆 竹澤知代志
印刷所 株式会社きかんし



報告をする在日大韓基督教会朱文洪牧師

深刻な被害状況の情報共有

日韓の教派を超えた協力関係

一月一八、一九日、ソウルの韓国教会宣教百周年記念館を会場に「統一協会問題・日韓教会フォーラム」が開催された。日本側からは「統一協会問題キリスト教連絡会」を構成する日本基督教団、カトリック教会、日本聖公会、日本福音ルーテル教会、日本バプテスト連盟、在日大韓基督教会の六教派の代表、弁護士、被害者家族の会の代表二八名、韓国側からは大韓イエス教長老会の統合派、高神派、ホーリネス、カトリック教会の四教派の代表二二名の合計四九名の参加であった。

これまで日本の各教派は、一月一八、一九日、ソウルの韓国教会宣教百周年記念館を会場に「統一協会問題・日韓教会フォーラム」が開催された。日本側からは「統一協会問題キリスト教連絡会」を構成する日本基督教団、カトリック教会、日本聖公会、日本福音ルーテル教会、日本バプテスト連盟、在日大韓基督教会の六教派の代表、弁護士、被害者家族の会の代表二八名、韓国側からは大韓イエス教長老会の統合派、高神派、ホーリネス、カトリック教会の四教派の代表二二名の合計四九名の参加であった。

平岡正幸牧師が日本の牧師たちがこの問題の被害者支援に取り組んできた歴史を紹介。「異端問題」とだけ韓国内では認識されがちなこの問題が日本社会では反社会性、問題性を有することとを報告した。被害者家族の会「代表をはじめとする何人かは、自らの体験報告も含めて具体的な事例報告を行なった。の中には、自身が韓日の合同結婚式に参加した後離婚したケース、霊感商法に参与したケース、現在韓国の夫と離婚調停をしているケースなど生々しい事例報告も含まれており、韓国側の参加者の注目を集めた。渡辺博弁護士は「日本における統一協会の実態」と題して、日本

における深刻な統一協会による経済被害の実態と救済の取り組み、最高裁の諸判決を具体的資料に基づきながら報告した。特に詐欺的な「霊感商法」については韓国側にもまだ周知されていない面が多く韓国諸教会の実態」と題して、日本



麗水(ヨス)問題の訴えを聞く

四項目の「共同声明」採択

「麗水問題」等の解決に向け

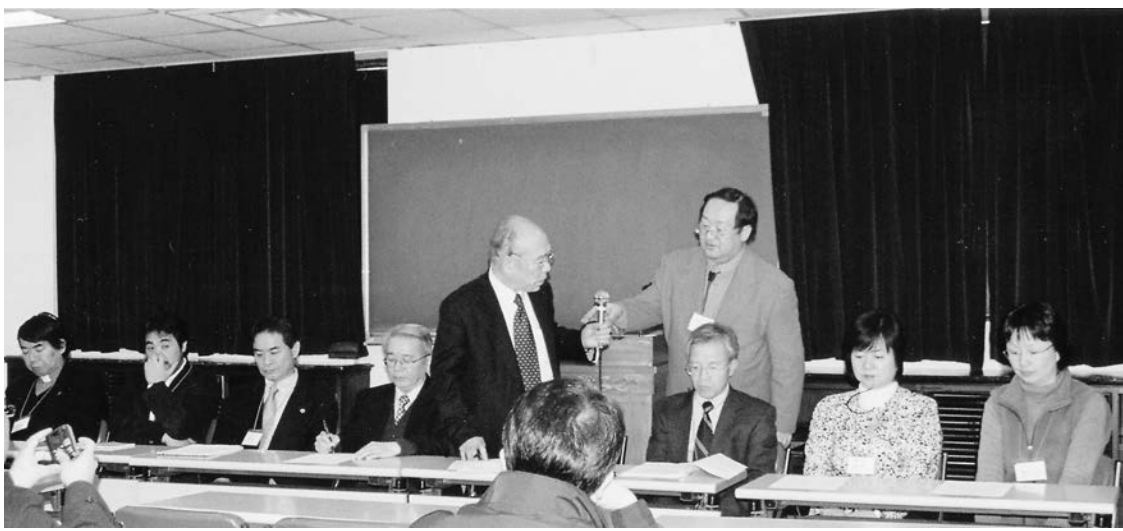
二日目は在韓の日本人女性の相談窓口開設、情報交換を密にすること、「麗水問題」等の解決に向けて両国の諸教会が協力して取り組むといった内容の四項目にわたる「共同声明」が採択された。韓国カトリック教会の朴ヒョンミン司教の祝福により「フォーラム」は幕を閉じた。終了後ただちに記者会見がなされ、TVを含む二五のマスコミ各社ら熱心な質問がなされた。また弁護士、被害者家族の会を中心に韓国の日本領事館を訪ね、この問題についての当局の真摯な対応を申し入れた。

振り返れば、一九八六年に日本基督教団に「統一協会問題全国連絡会」が結成され、同年の教団総会での問題に積極的に参加する「声明」が、更に九三年に再「声明」が出されていく

中、九〇年代はじめに早稲田に韓国三教会(大韓イエス教長老会、韓国基督教長老会、基督教大韓監理会)の代表を招いて協議会を開催して当時三七名参加以来のこの問題についての大きな「フォーラム」となった。今回は日韓両国で具体的にこの問題に取り組んでいる牧師、弁護士、「家族の会」の面々が直接顔を合わせて情報交換し合

い、今後の協力の方向を探る事ができた点、日韓両国諸教会がカトリックまで含むエキュメニカルな協力の方向を探る事ができた点、被害の大きな日本側から多数の関係者が韓国に赴いて具体的な資料を提示して問題を訴えたという点で画期的な会となった。中でも「麗水問題」は日本側ではまだそれほど深刻さが認識されていなかったが、二〇〇八年までに万博招致か否かが決定されてしまつという緊迫感をもって

韓国南端の現地からわざわざこのフォーラム会期に合わせて三名の教会代表が参加、詳細な資料を添えて報告した事も注目を集めた。「麗水開発」をめぐる政界と統一協会の黒い癒着、浸透が進む中、麗水を「統一協会グループのメッカ」化する(昨年六月「朝鮮日報」紙が報道した文鮮明発言「計画が進められている。」「白寿を迎えました。奏奉仕は無理でも、朝晩、オルガンに向かっていますよ」という電話を貰った。嬉し涙が滲んだ。



記者会見する参加者

荒野の声

側諸教会の案内で、ソウル市内やこの春に完成予定の清平(チョンピョン)本殿聖地、清心病院、老人ホーム、清心神学大学院等の現地視察も行うことができた。

ある寒い日の礼拝後、奏奉仕者がオルガンの席に座ったまま、手を組んでうなだれている。どうも気になるので、少し近づいて様子を窺ってみた。頬に涙がたいて、そして光った。涙を流す婦人のお相手は敬遠したくなる。苦手だ。まあ、得意な人もいないだろうと思うが、妻が「どうかさいますか」と声をかけた。返答はあまりにも意外なものだった。米寿を迎えようとする年齢で、なお奏奉仕の奉仕が出来た。ここまで健康を与えられ、礼拝に仕えることが出来て、嬉しくて嬉しくて、感謝の涙が出てしまったということだった。

喜怒哀楽の感情の内、怒気は、あまり衰えないように思う。楽もありさだ。喜、：感極まり感謝の涙を流したのは、一体何時のことだったか。そんなことが果たして一度でもあったかどうか、それも怪しい。婦人は、この日の奏奉仕を最後に、自ら現役を退いた。それから一〇年、今は転居し新しい教会で礼拝を守っている。「白寿を迎えました。奏奉仕は無理でも、朝晩、オルガンに向かっていますよ」という電話を貰った。嬉し涙が滲んだ。

受験会場は大阪一カ所で

第四回教師検定委員会

第34総会期第四回教師検定委員会が、一月二三～二十四日、大阪クリスチャンセンター及び天満教会で、委員七名の出席で行われた。大阪クリスチャンセンターを会場にしたのは、試験会場の下見を兼ねるためであった。

教師検定試験の受験会場を大阪クリスチャンセンターにおいて一本化することが検討され、費用等も含めて可決された。常議員会を経て、今後この方向で教師検定試験は実施されていくこととなる見通しである。

最初に前委員会で試験会場の一本化の件を常議員会に報告したこと、各教区議長にその旨の文書を出したこと、常議員会及び各教区から特に反対はなかったこと等が菅原力委員長より報告された。また、「教憲第九条検討作業委員会」からの提言などが委員長より報告された。

二〇〇六年春季教師検定試験受験志願者は、補教師九二名(Aコース三九名、Bコース二九名、Cコース二四名、正教師一五名、計一〇七名。他教派からの転入二名、退任教師の復帰一名。それらの者の受験資格が確認された。又、受験コースの決定と科目認定を、申請された一名に対して行った。その他、学科試験当日の責任分担、試験日

程、時間割、全体会と面接の持ち方を協議し、決定した。その中で、二名の記述

試験が困難な者のパソコンの使用や口述試験について協議し、承認した。受験費用援助の申請が四名の受験者から出されており、これを検討し、決定した。既に提出されている課題



大阪教区の天満教会で

大下宣教師夫妻の活動報告に感謝

第四回世界宣教協力委員会

一月二四日午前二時から午後四時三〇分まで、教団会議室において第四回世界宣教協力委員会が開催された。葬儀のために欠席した木下宣世書記に代わり、村山盛芳実務委員が代理書記に選任された。

宣教師で夫妻だった。昼食前の時間に活動報告をお聞きし、昼食を食べながら交わりの時を持った。北米における日系人教会の働きが、多くの人の心の支えになっている様子を知り、委員一同は大下宣教師夫妻の働きに感謝をするともに、後任の木原葉子宣教師とご家族の働きが祝福されることを祈った。もう一組は、ブリュッセル日本語プロファサント教会(ベルギー

が各委員から出され、今後の大切な課題として確認した。今回も多くの受験志願者が与えられていることを感謝する。春季の受験者の多

くは補教師試験であるが、伝道者としての出発の時であり、真摯な学びをもって備えられることを期待する。(小堀康彦報)

概要説明盛る補正予算案作成へ

第四回予算決算委員会

第34総会期第四回予算決算委員会は一月二三・二十四日の両日、教団会議室で開催された。

竹前昇総幹事および計良祐時財務担当幹事より、当委員会に関わる事項の報告を受けた。

二月に開催される常議員会への報告事項について、二〇〇五年度補正予算案について、教団監査委員からの要望について、事務局・出版局・年金局の連結決算を目指すことについての課題、等の報告があった。

二日目の予算決算委員会では、教団会計監査からの要望について審議を行った。

プログラムがドイツで、それぞれ今年計画されている。COC組織検討、常議員会よりの回付議案に関する



宣教師を送り出すことから帰国まで

新任教師の内容を決定

第7回教師委員会

第34総会期第七回教師委員会が一月二六～二七日に教団小会議室において開催された。

今回の主な協議内容は、昨年一〇月から一月にかけて実施された教師委員会の神学校問答の報告をもとに協議したこと、二〇〇六年度の新任教師オリエンテーションの概要を決定したことなどである。

新任教師オリエンテーションは六月二六～二八日に天城山荘で開催されるが、その具体的な内容について協議し、決定した。

主題は、「教団の教師として宣教を共に担う」を今回も継続して掲げていくこと

を確認し、この主題の課題である、日本基督教団の「教師像を探ること」、「宣教の内容を探ること」、「宣教を共に担うこと」を踏まえて教団総会議長、副議長、総幹事にそれぞれ発題をして貰う予定である。

しかし、一方で委員会が数年来心を砕いている点は、新任教師の現場での苦悩への配慮である。そこで、今回のオリエンテーションでは、新任教師相互の交わりを深める意味で、各自が担任教師、主任担任教師、教務教師と赴任する形が違い、また、教育委員会から委ねられているキリスト教教育主事として赴任する者も

加わっていることを覚えて、それぞれの立場から赴任三ヶ月目の声を聞くことをプログラムに盛り込んでいく。更に、「牧会の課題」と題して発題を受けることを計画し、昨年好評だった「牧会講話」も継続してプログラムに加えている。

また、今回の委員会では十分に時間を取ることほできなかったが、女性教師について現状が報告された。これはまだ個人的な段階でのものではあったが、教師委員会が取り扱うことを求められている無任所教師に関する件、隠退教師に関する件などと共に今後の委員会の取り組みへの先駆けとなった。

また、「戒規施行細則」を補つために「教師委員会



新任教師の現場での苦悩に配慮すべく

第34総会期第四回予算決算委員会は一月二三・二十四日の両日、教団会議室で開催された。

竹前昇総幹事および計良祐時財務担当幹事より、当委員会に関わる事項の報告を受けた。

二月に開催される常議員会への報告事項について、二〇〇五年度補正予算案について、教団監査委員からの要望について、事務局・出版局・年金局の連結決算を目指すことについての課題、等の報告があった。

二日目の予算決算委員会では、教団会計監査からの要望について審議を行った。

経常外会計の経理処理については、諸会計をなんとか統合できないかとの観点で検討することになった。

予算管理については、基本的に予算を立てる段階から当初予算を守るという姿勢と、補正予算があることを前提としない予算執行に、今後取り組むことを申し合わせた。

C表の改訂については、改訂の目的が負担金の公平を期すること、予備費の扱いを明確にすること等として、改訂について説明文を各教区に配布することになった。

(池田浩一報)

宣教課題としての外国人住民基本法

第20回外キ協全国協議会・全国集会

二〇〇六年一月一九〜二日、広島を会場に「第20回外キ協全国協議会」同全国集会」が開催された。協同集会では「宣教課題としての外国人住民基本法」戦争と排外の時代に「外国人住民基本法」制定運動を展覧した。広島YMCAの皆さんが案内により平和公園、広島城跡にある旧大本営跡などを見学したが、特に朝鮮人原爆犠牲者慰霊碑については、協議会で証言された在日大韓基督教教会広島教会の金信煥名誉牧師のお話とも直接結びついて心を揺さぶられた。大本営跡、護国神社ではまさに軍都「広島」が記憶から蘇るようで、平和都市「ヒロシマ」の背後にあるおぞましさに触れ、背筋が寒くなった。



世界平和記念聖堂で開かれた《「外国人住民基本法」の制定を求める全国キリスト者1・21集会》

島城跡にある旧大本営跡などを見学したが、特に朝鮮人原爆犠牲者慰霊碑については、協議会で証言された在日大韓基督教教会広島教会の金信煥名誉牧師のお話とも直接結びついて心を揺さぶられた。大本営跡、護国神社ではまさに軍都「広島」が記憶から蘇るようで、平和都市「ヒロシマ」の背後にあるおぞましさに触れ、背筋が寒くなった。

神奈川 教区設立40周年事業への取り組み

高柳竜二

神奈川教区は一九六五年四月一日に東京教区より分離し設立された。昨年二〇〇五年が教区設立四〇周年であった。

教区 コラム

「たいい」などいろいろな意見があった。常置委員および陪席者から「そんなことには反対だ」との意見は誰からもなかった。話し合いとしては、教区内すべての教会伝道所から礼拝説教を出し、てもらった説教集を作るということ、に好意的な意見が多かった。このことが総会の議論がさる中、教区伝道所が主から託された宣教・伝道の業に励む、その中で言葉の説き明かしがされている。その一つ一つの民の群れの中で語られた言葉が一冊にまとめられることは意義のあることだと思う。

速水優前日銀総裁を講師に

西東京教区 キリスト教講演会

西東京教区では年一回、壮年委員会主催による「キリスト教講演会」が行われている。社会福祉、キリスト教教育、老いなどの現代



「職業観についてーコーリングへの応答」と題して

社会、そして現代の教会に於ける諸課題を取り上げ、講演を伺い、教区内壮年会の親睦の時ともなっている。六回目となる今回は、

一月三日「職業観についてーコーリングへの応答」と題して、キリスト者経済人である速水優氏（前日本銀行総裁・聖学院名誉理事長・阿佐ヶ谷教会員）を講師として、阿佐ヶ谷教会に於いて開催され、教区内外二五教会より約一〇〇名の参加があった。

速水氏は、自らの戦中・戦後体験、経済界での経験はもちろんのこと、教会での経験、海外での体験や理事などに関わってきたキリスト教主義学校での経験を通して、「職業観」をどう考えるか、その思いを語られた。

速水氏の「職業観」は、大塚久雄氏のマックス・ヴェーバー「プロテスタンテ

の承認、共同代表や事務局長選出なども滞りなく行われた。

全国集会はカトリック職

町教会にお世話になった。

世界平和記念大聖堂で在日

二世シンガウの李陽雨さん

の歌と語り、外国籍住民四

人の証言を通して、いろん

な国の人や文化が共存でき

ることを確かめた。外

「外国人住民基本法」と

の協力体制に關してであっ

た。この三発題を二つの分

科会で討議し、その報告を

もとに二回にわたる全体協

議で議論を深めた。

その他、活動計画や「共

同の祈り2006」につい

ても確定され、決算・予算

え方、他の生き方、自分と

較する必要がある。自分と

較する必要がある。自分と



平和公園内にある「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」の前で

違つものを認めあつていくことが地球市民として、いかに大切かを思わされた。

外キ協活動に関わっている、自分を周りの人と比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と

比較する必要がある。自分と



長崎県に生まれる。一九四一年関西学院神学部卒業後、久留米東町教会に赴任、八八年まで牧会し、隠退した。遺族は妻の政子さん。加藤俊三氏（隠退教師）

一月六日、逝去。一〇一歳。愛知県に生まれる。一九三〇年私立中央神学校卒業後、日本基督教義養教会、三春教会に赴任。三十七年から四四年まで福山延広教会、五四年まで久万教会、その後七五年まで篠山教会を牧会し、隠退した。遺族は長男の和久さん。

事務局報

所在地変更

宮古島 宮古島市平良字

下里一〇四六の一

会津高田 大沼郡会津美里

町字法蓮寺東甲

三六五五の一

今津 高島市今津町今津

一六五〇の一

国分 霧島市国分中央

二二〇二

通信先設定

枚方市 枚方市楠葉

朝日一〇三二の十四

ケアハウス楠葉新生園内

東村山 東村山市恩多町

四の四十四三芳賀力方

城崎 豊岡市中央町四の三

豊岡教会気付

勝山 真庭市久世二八二五

久世教会内

井原、高屋 井原市井原町

一四三九の一 宇野

政勝方（通信先の変更）

消息

田中道宣氏（隠退教師）



一月二日、逝去。八六歳。

伝道のともしび

「子どもバザール」

下谷教会

下谷教会は、昨年二月創立一二二周年を迎える。一八七五年、カナダメソヂスト教会によって創設され、その後メソヂスト三派が合同して日本メソヂスト教会となり、その後日本基督教団下谷教会となった。現在、辻秀治牧師、順子牧師が牧会している。

二〇〇二年四月から新会堂は、美しい鐘の音と共に上野の新しいシンボルとして親しまれている。東京下町ならではの家庭的性格を生かし、福音伝道を展開してきたと、教会員は口々に語る。毎年行

る。

第一部「子どもバザール」はホールで開かれる。様々な模擬店が並び、参加者はデナリでキャンデイの手掴み、ダーツ、クイズ、ジャンケンコーナー、たこ焼き、わたあめ等、それぞれのお店で「お願いします」「くだらない」とゲームや買い物を楽しむ。中でもクイズコーナーは聖書の問題で「簡単、普通、難しい」の三段階に分かれ、それぞれの聖書知識レベルに合わせる仕組みになっている。答えられた子どもたちは、得意そうに賞品を選んでいく。

この「子どもバザール」のお店は、以前は教会学校教師だけで準備をしていたが、数年前、教会学校教師が減少し、準備が困難となった。その時に子どもたちの方から手伝うことを申し出、また卒業生の中から教会学校教師が新しく起こされた。今は教会学校の子もたち、卒業生、保護者たちも積極的に手伝っている。

最後の第三部「おやつタイム」となった。ホールには婦人会からお汁粉、杏仁豆腐が用意され、皆で味わいながら、近隣四教会である西新井、浅草、亀戸及び下谷教会の参加メンバーが紹介され、交歓の時を持った。これらの教会は互いに交流を持ちながら、地域伝道を目指している。「下町の教会の地域に根差した次世代への伝道展開が今後とも期待される集会であった。」



「おやつタイム」、メニューはお汁粉、杏仁豆腐

ども会」は近隣教会との協力・交流の場となり、地域の子もたちをはじめ、多くの人々を教会に迎える伝道の一翼を担っている。そして教会学校の子もたちにとっても、「奉仕する」ことを学ぶ場となる。

第二部「マリンバ演奏」は、教会学校を今年卒業する高校三年生の女子生徒が演奏した。彼女はマリンバ専攻での音楽大学入学が決まり、将来の夢は演奏家にと語る。これまで教会の熱く、長い祈りに支えられ、育てられた彼女の演奏一曲、一曲に総勢五二名の参加者は大きな拍手をおくった。

最後は第三部「おやつタイム」となった。ホールには婦人会からお汁粉、杏仁豆腐が用意され、皆で味わいながら、近隣四教会である西新井、浅草、亀戸及び下谷教会の参加メンバーが紹介され、交歓の時を持った。これらの教会は互いに交流を持ちながら、地域伝道を目指している。「下町の教会の地域に根差した次世代への伝道展開が今後とも期待される集会であった。」

(松本のぞみ報)

お知らせ

◇宣教師公暮
任地：台湾・台北・台湾基督長老教会国際日語教会／
任務：牧師／任期：2006年9月～2009年3月
(2年7ヶ月)／条件：教団正教師／応募締切：2006年5月31日／他詳細はお問い合わせ下さい。世界宣教師協力委員会 ☎03-3202-10544

催し

★岩村昇感謝記念会
「みんなで生きる」／岩村昇医師から受け継ぐもの／
／時：3月11日(土) 13時半～16時(予定)／所：日本基督教団信濃町教会／参加費：五百円(当日受付にて)／内容：記念礼拝とパネルディスカッション／主催：問合せ(社)日本キリスト教海外医療協力会(JOCS) ☎03-3208-12416

★神学校新卒者エキユメニズム研修会
時：3月15日(水) 10時～16時半／所：AVACO およびキリスト教会館／午前、講演(現場から見たエキユメニカル運動と共に生きる社会を目指して)／李清一さん、午後、「交わりとキリスト教団体の働きを学ぶツアーなど」／対象：本年度神学校卒業予定の方(教派を問いません)。また、日本基督教団教師検定試験C3受験生の方および合格後一年以内の方／参加費：無料／締切：3月6日(月)／主催：問合せN

CC教育部(☎・FAX 03-3203-10731)なお、午前中の講演は公開です。どなたでもご参加ください。

★東京教区原理問題相談会
時：3月24日(金) 13時～15時／所：日本キリスト教会館4階会議室／問合せ：東京教区事務所 ☎03-3203-14270

出版局ニュース

http://www.bp.ucj.or.jp

新刊から

『キリスト教礼拝・礼拝学事典』(今橋朗・竹内謙太郎・越川弘英監修)プロテスタント、聖公会、カトリックなど日本のキリスト教界が総力を結集して完成した、日本初の本格的辞典。礼拝関連の全ての分野を網羅する四〇〇余の項目は全て書き下ろし。礼拝の歴史に学び、明日の礼拝を切り拓くための最新の事典。牧師と信徒が礼拝を知るために。

＊A5判・五三〇頁・特価八九二五円(本年六月末迄)

書評再録

『キング牧師フォト・ドキュメント 私には夢がある』アメリカの人種差別撤廃運動を指導したキング牧師の生涯をたどる写真集。三〇万枚以上の写真から選んだ決定的な三六五枚。キングは、非暴力のガンジー哲学を米国で実現し、二〇世紀に貢献した。七年前、インタビューしたコレタ夫人の声がよみがえった。(朝日新聞)〇五年二月八日)＊B4判・八九二五円



佐竹順子さん

礼拝で養われた奉仕のフットワーク



大塚平安教会員。日本キリスト教婦人矯風会会長。

「朝まだきチラシ束ねて足早に十五軒巡れりと水飲みつの妻」これは、県議会議員を務めた今は天にあるお連れ合いが詠まれた歌である。

毎月第四木曜日に家庭集会を開いている。その都度、週報に家庭集会の案内が記されているので赤線を引き配って歩く。朝早く、一時間半ほど歩いては配るのである。電話をかけて案内をするより、教会の週報を見ていただいたことの願いもある。そのお陰で健脚になったと言われる。現在では全国を歩いているかのようである。時には自分で案内書を作ることもある。配布し、声をかける。「伝道は声かけです」と熱意を語る。遡ること一九七〇年からであり、三

六年続いている。

一九六二年に結婚。それは知的障害者と共に歩む始まりであった。家でもあり施設でもあるところから二分の距離に大塚平安教会があった。すぐに東京山手教会から転入する。まもなく役員となり、婦人会を立ち上げ、教会の諸活動で働いた。それは今日に至るまで続き、役員を始め、教会の幼稚園では理事であり、後援会会長でもある。

夫が県議会議員になってからは、その後任として社会福祉法人知的障害者の施設長に就任した。その後、息子に引き継いでもらったが、荷が軽くなったと言った代わり、日本キリスト教

こうして目まぐるしいまでの活動に関わっている自分を見つめながら「これらすべての役目と活動は信仰に基づくもので、大塚平安教会の聖日礼拝で養われ力を与えられている」と語る。

もう三〇年以上も早朝から教団の正常化のために祈りつづけていくくれるグループがある。朝教会である。毎日、毎日、日本のどこかで教団のために祈っていてくれる朝教会の存在、これは大きな恵み、そして励ましに他ならない。信徒運動の一つとしての朝教会。その祈りの執成しに教職は謙虚にせられ、その熱き祈りに応えていかねばならぬ。

来年度で朝教会誕生五〇年。その八割近くの時を教団が正しく機能回復し、本来的使命に立ち帰るために割いていくれている。

祈り祈られつつ

その朝教会全国連合年頭集会が一月二〇日～二二日、東京虎ノ門パストラルと東京カテドラルで開催された。今年でオ35回を数えるとのこと。

「平和と一致を願う祈り」という主題に沿って開会礼拝にて「屠られた小羊」と題し、ヨハネ黙示録第五章11～14をもとに説教させていただいた。この会でも教団のため熱き祈り

を捧げて下さり感謝至極である。折からキリスト教一致祈禱週間。祈り祈られて共に前進していく姿勢を軌道修正する時である。聖ヶ丘教会では同じ地に建てられたカトリック渋谷、渋谷パプエスの教会との一致集会を二日に持った。今年で28回目である。同日はイクナチオ教会のタベのミサにても説教させていだいた。見ず知らずの牧師に講壇を譲るカトリックの幅広さ、奥行き、豊かさにまた圧倒された。祈りを共にすることこそ力の源である。(教団総会議長 山北宣久)